

(北陸エリアにおける ICT - N - 2)

**ICT× シビックテックによる交流・連携の促進
(金沢市)**

〔概要〕

金沢市では、「責任と誇りを持てるまち金沢」を理念として、「世界の交流拠点都市金沢の実現」という都市像を策定しました。この都市像を具現化するための政策を明示したものが重点戦略計画（平成26年2月策定）であり、本市の十年間の実施計画として位置付けています。

計画では、ICTを活用した施策も幾つか掲げられており、今回、その中から「オープンガバメントの構築」に関連した事例を紹介します。

〔コラム〕

(1) 金沢市のオープンデータ

① 施設オープンデータ（平成24年度～）

本市の公式アプリ開発にあたり、主要機能として、施設案内を位置付けることとしたことから、その開発にあわせて市有施設情報のオープンデータ化に取り組んできました。データをメンテナンスするシステム構築は委託することとしましたが、データ整備は職員で実施し、市公式アプリのリリースにあわせて平成25年1月から公開しました。

同時に、API（Application Programming Interface）提供を開始し、利用者がインターネットを通じて機械的にデータを取得・活用することができるようになりました。

② 画像オープンデータ（平成25年度～）

北陸新幹線金沢開業の前年度となる平成25年度は、金沢の魅力を身近に感じることができる画像データのオープン化に取り組みました。

市が所有するデジタルデータや写真データの権利関係を確認する作業と共に、季節を感じることができる観光地や施設の画像を新たに収集し、ちょうど新幹線開業の1年前となる平成26年3月から公開しました。

登録データは、画像データとは別に、撮影場所の住所や座標、撮影日などをメタデータとして作成し、地図アプリ等で活用しやすいような配慮もおこなったところです。

③ イベント情報オープンデータ

その他には、平成26年3月に市有の芸術施設を管理する金沢芸術創造財団が、施設で実施する各種イベント情報をJSON（JavaScript Object Notation）形式でオープンデータ化して提供しています。

(2) オープンデータの活用

① 金沢市公式アプリ

本市のオープンデータの取り組みは市公式アプリの開発からスタートしており、平成25年1月のリリースから27年10月末までの累積ダウンロード数は1万件を超えています。

② アプリコンテスト

オープンデータをより多くの方々に知っていただくために、セミナー等を開催すると共に、平成23年度から実施しているスマホアプリコンテストを活用しています。施設オープンデータを公開した翌年度の平成25年度に、「オープンデータ部門」を新設し、15件の応募がありました。グランプリ受賞作品は、避難所データや気象庁のデータを利用し、災害情報の取得・発信から避難所までの誘導を行う「かなざわ避難支援ナビ」というアプリでした。地理に不慣れな観光客でもわかりやすく避難できるアプリとして様々なメディアに取り上げられました。平成27年度はコンテスト名を「KANAZAWAオープンデータアプリコンテスト2015」として開催し、25件の応募がありました。

③ 民間での活用

公開したオープンデータは、民間での利用も進んでいます。施設オープンデータは、金沢の地域情報を発信するポータルサイト「あるんけ金沢」でのご利用を皮切りに、地元不動産会社のサイトや交通系情報サービスにも利用されています。画像オープンデータについても、出版社による雑誌への利用や、ブログ、会報誌等への掲載など、本市で把握しているだけでも様々な方法で利用されています。

(3) 市民によるシビックテックの取り組みと交流の促進

オープンデータ化が進む中、市民の中から「シビックテック」に取り組む団体が誕生しています。シビックテックとは、市民がテクノロジーを利用して、公共サービスなどの地域課題解決を行うことです。

シビックテックに取り組む代表的な団体の一つに、「Code for Kanazawa」(代表理事 福島健一郎氏)があります。ITとデザインの力で地域の課題の課題解決を図ることを目的に、平成25年5月に設立(平成26年2月に一般社団法人化)されました。Code for Kanazawaさんの活動実績として最も知られているものは、ゴミ出しアプリ「5374 (ゴミナシ). jp」で、ゴミ出しのわかりにくさをITでシンプルに解決することを目的に開発されました。ゴミのジャンルごとの収集日を一目で確認できるデザインになっているほか、捨てることが可能なゴミの一覧を見ることができます。また、オープンソースとして公開したことから、全国で80都市以上に広まり、それぞれの都市の5374. jpが開発・運用されています。

一方、交流の促進という点においては、平成26年8月に「Code for Japan BrigadeMeetup」というイベントが金沢で開催され、北は旭川から南は石垣島まで、全国29のCode forコミュニティが集結し、各地の取り組み発表やディスカッションが行われました。Code for Kanazawaが日本初の地域Code forコミュニティであることから、記念すべき初開催地に選ばれ、交流を深めました。

また、総務省が昨年度実施した社会実装型ハッカソン「まちつむぎ」では、本市が実証の舞台として選ばれました。金沢の課題を取り上げ、その解決に役立つアプリの試作を東京で行い、金沢に持ち込みテストを実施するという事業でしたが、交流を通じて地域社会の課題解決を目指した新たな形として、参加者から好評を得たと聞いています。



特集 1

ICTを活用した取組の紹介

(4) 今後の展開

全国的にも早い時期に着手した、オープンデータに関する本市の取り組みですが、まだまだ各部署や各職員で温度差があるのも事実です。そこで、市としての取り組みの方向性などを示す「金沢市オープンデータの推進に関する取組方針（仮称）」を今年度中に策定し、全庁的な推進体制で取り組んでいきたいと考えています。オープンデータやシビックテックによる新しい協働と交流は、人と情報の交流をさらに活性化させ、「交流拠点都市金沢」の基盤になると考えており、今後も施策の展開を進め、新たな価値の創造と金沢の持続的発展を目指していきたいと考えています。

【問い合わせ先】

- ・ 金沢市市長公室情報政策課ICT推進室
- ・ 電話番号：076-220-2014 FAX番号：076-220-2777
- ・ e-mail：ict@city.kanazawa.lg.jp